

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月19日(金)

会場:みわ文化センター

参加者数:110人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>自分たちが子どもだった時と時代は大きく変化している。一番の違いは、子どもの人数が少ないこと。現在の小中学校では、少人数であることを活かした素晴らしい教育をしている。しかし、少人数であるがゆえに育ちにくい能力もあると思う。それは社会性、たくましい体力、気力である。どれも子どもたちが生きていくうえで大切な能力である。安芸高田市と庄原市では、学校の規模適正化は必要であるとして、学校の統廃合に取り組んでいることが新聞に載っているのを見たことがある。県立中高一貫教育校が来年春に開校することで、周辺部の学校の生徒の減少に拍車がかかると思う。私は三次市も学校の統廃合はやむを得ないと考えている。</p>	<p>・まずは、三和町では、地域の方が放課後に子どもたちの勉強を見て下さる取組をされていることに感謝したい。これは凄いことであり、他の学校区にも広めていきたい取組である。</p> <p>・現在三次市は、例えば、小学校では「完全複式」や「1年生から6年生までで在籍児童数が0人である学年が2学年ある」などの状況が生じた場合に、学校規模適正配置について考えることにしている。なお、いただいたご意見については、教育委員会でも共有させていただく。</p> <p>・これまで東広島市の中高一貫教育校に行くためや他の私学に行くために、三次市を離れていた子が、自宅から通える三次市内に新たに県立中高一貫教育校ができることで、学ぶ選択肢が増えることになる。現在の三次市立の中学校にとっては、県立中学校と学校同士の交流をすることができ、より良い授業づくりに相互研究を重ねたり、切磋琢磨できるメリットもある。中学校、高校時代を三次市で過ごす子が増えることで、三次への愛着がより深まり、いったん三次市から出たとしてもまた三次に帰ってきたくなる子が増えるようになる。そういう面で、この県立中高一貫教育校の開校は、定住対策にもつながると考えている。</p>	
<p>元気サロンを数名地区でもやろうということになり、15人で立ち上げた。4月6日から毎週金曜日に数名コミュニティセンターを借りて午後の1時間実施しており、年間を通じて開催する計画である。DVDを見ながらのエクササイズ、そして健康に関する話を聞いたり情報交換をしている。体力測定をすると、元気サロンを開催することによる効果が出ていると感じる。もっと多くの方に参加してもらえるように、健康活動に参加するとポイントがもらえる制度を設けてはどうか。励みになるし、継続性が高まると思う。</p>	<p>・喜んで健康サロンに行ってもらえるように取り組むことは大事である。健康寿命と平均寿命のギャップを埋めていくためには、家から出かけることや体を動かすことが大事である。そのための取組の一つとして、ポイント制を導入するという考え方もあり、広島市が導入している。</p> <p>・市では、平成28年度からサロンを広めることに取り組んでおり、現在、市内では16のサロンがある。三和町内でも周りの方々にもっと広めていただいて、利用者が増えてほしいと思う。</p>	
<p>・旧三次市内に人口が集中する傾向にあることをどうにかしないといけないと思う。私は、「通い農業支援制度」を創設すればよいと思う。就業の機会を求めて周辺部から出た若者が、週末など農業をしに実家に帰る際のガソリン代など交通費を支援する制度である。子どもが帰ってきやすくなると孫も帰ってくるようになる。</p> <p>・単市補助で、小規模農業施設等改良事業というものがあり、50%の費用を補助してくれる。しかし、この制度を利用するには必ず建設業者を通すことになっているので、業者を通すこの制度では経費が高くなる。農業者個人が簡単な改良を自分ですれば、資材費のみで済むので、建設業者を通さずにする改良事業も20%~30%でも補助をしてはどうか。周辺部の農業の支援をしっかりとしてほしい。</p>	<p>・何かあった時には多くの家庭で1時間以内に実家に後継者が帰って来れる状況にあると、元熊本大学教授の徳野さんは実際に実地調査をされ、確認している。近くに住んでいる家族が帰ってきて同居等につながる後押しとなるような取組は必要である。</p> <p>・農業者個人が資材を買って自分で改良する場合でも補助ができないかについては、今後検討してみたい。</p> <p>・三次市では、農業振興プランを平成28年に策定し、各取組を進めている。補助事業は市単独のものを含め、たくさんのメニューを設けている。いただいたご意見も参考として、今後も農業振興のための取組を進めていきたい。</p>	

平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月19日(金)

会場:みわ文化センター

参加者数:110人

参加者の発言	市の発言	備考
市立三次中央病院は、予約患者が優先であるため、かかりつけ医の紹介がないと、何時間も待たされる。初診の人は、急患であるから行っている。再診の患者は急患ではないと思う。すぐ待たされるので「元気でないと市立三次中央病院には行かれない」と言う人もいる。患者の気持ちに寄り添った診察をしてもらいたいと思う。	外来については、一日約700人の方が受診され、待ち時間が長いというご意見は認識している。医療全体の考え方として、医療従事者が限られている中で、かかりつけ医である開業医と急性期病院である市立三次中央病院などが役割分担をして、地域全体で医療を行い、地域の医療を守っていくよう取り組んでいる。初診は、どうしてもレントゲン検査や血液検査などに時間を要するため、まずは、かかりつけ医である開業医を受診していただき、必要に応じて紹介状を持って市立三次中央病院を受診していただければ、診察をスムーズに受けることができる。	
JR福塩線は一日5便位しか通らないのに、踏切で必ず車が止まらないといけない。信号をつけるなど、通常は踏切で止まらなくてもいいような対応ができないか。	JR福塩線の踏切については、幾度か道路管理者である広島県がJR側に要望をされた経緯があるが、事故防止の観点から認められていない。	
三次市役所がある通りにはほとんど駐車場がない。あっても有料であったり、目的地から遠い場所である。地域を活性化しようと思ったら、マイカー時代なのだから、もっと市営無料駐車場の確保に取り組むべきである。	駐車場が不足しているという認識は持っている。	
これからの日本社会は縮みゆく社会である。私は夕張市も見に行ったことがある。これからはハコモノの整理をする時代だと思う。三次市もしっかりしてもらいたい。	三次市の実質公債費比率は7.5%にまで下がっている。三次市が夕張市のようになることは有り得ない。実質的な市債残高は、137億円と減少している。	
大土山の安芸高田市との境界の問題については、境界はすでに確定しているが、経費と時間がたくさんかかると聞いている。	境界の問題は、裁判所の判決が出たものの、いまだ確定できていない。現状を説明すると、大きい山であり安芸高田市との境が2kmほどあり、さらに裁判所で決定された境界の座標値が、今現地にある境界を示すコンクリートの場所から20mくらい安芸高田市側に入ったところになっている。これらの、権利関係を整理するには、多くの権利関係者がからみあっており、どのように手続を進めるべきか、安芸高田市と協議をしている。	
セイタカアワダチソウが花盛りであるが、誰もきれいだとは思っていない。耕作放棄地、畦畔にたくさん生えている。道路の法面にもたくさん生えている。町民が力を合わせて、これを根絶やしにしないとイケない。広島県は年に1回しか道路の草刈をしないが、花が咲く前にも道路の法面を刈ってほしい。	(回答不要)	
観光交流施設が市の中心部にしかないと思う。世羅町は花いっぱい楽園づくりを中心に町民の活力アップと観光客の呼び込みをしているが、三次市にはそういった取り組みが少ないと思う。周辺部の観光交流施設についても考えてもらいたい。	(回答不要)	

## 平成30年度地域づくり懇談会 主な意見

開催日:10月19日(金)

会場:みわ文化センター

参加者数:110人

参加者の発言	市の発言	備考
障害児者に対する三和町での取り組みや実態把握について聞きたい。また、三和町では高齢者でも介護サービスを利用されていないたくさん認知症の方や独居の方などがおり、困っている。	障害者及び高齢者の分野については、今年度から新たな計画を策定して取り組んでいる。障害者の方には、本人の意見も聞きながら取組を進めるようにしている。	
まちづくりは市民がするものではなく、市役所がするものである。市民は後押しをするぐらいである。	まちづくりは行政が責任を持って取り組む必要があるが、同時に住んでいる皆さんの頑張りがあってこそ成立すると思っている。	
三次市には財源がない。木は安い、牛はいない、米は安い、松茸はない。若いものはみんな市外に出ている。これを解決するには、JR芸備線の電化と太陽光発電の取組が重要だと思う。	JR芸備線の電化は長年要望に取り組んでいるが、ハードルは高い。むしろ、広島県北部で懸念しているのは、JR芸備線が三次より北では廃線になるのではないかということ。JR西日本には、一日も早い全線復旧をお願いしている。	